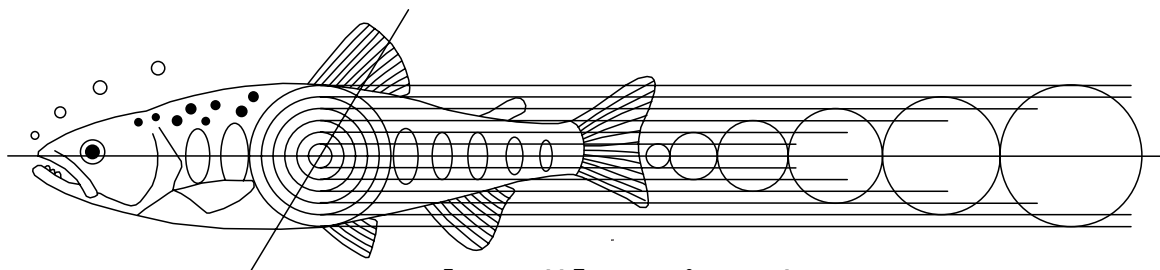


長良川に徳山ダムの水を流す 木曽川水系連絡導水路計画の問題点と現状



<http://dousui.org/>

公共事業は誰のものか

2009. 1. 31 ウイルあいち

長良川市民学習会 武藤 仁

「長良川に徳山ダムの水はいらない」市民学習会実行委員会

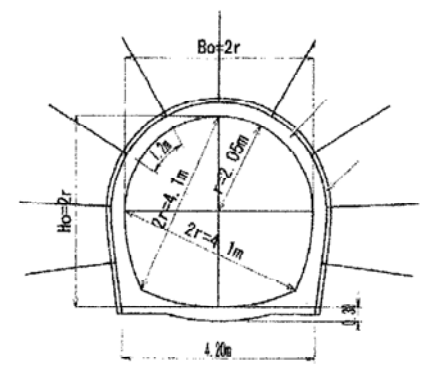
1. 木曽川水系連絡導水路計画とは？

2. 木曽川水系連絡導水路計画の問題点

- (1) いらない水を流すムダな施設である
- (2) 環境改善に根拠は無い
- (3) 納得できない私たちの負担

3. 木曽川水系連絡導水路事業の現状

- (1) 情報公開と市民対話を
- (2) 住民の理解の無い中での着工は許さない



延長: 43km

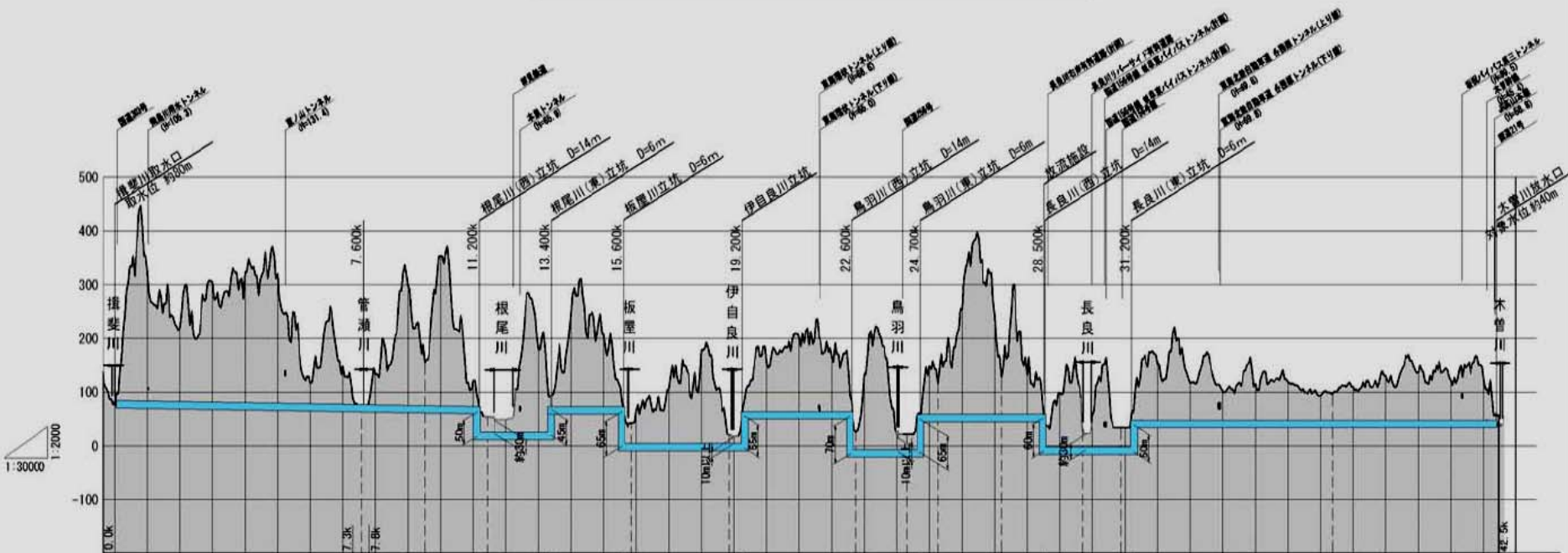
トンネル径: 約4m

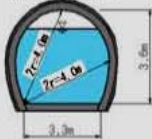
木曽川水系連絡導水路計画

工期 2015年度(H27)

事業費 890億円

木曽川水系連絡導水路縦断計画(案)概要図



延長 (m)	7300	500	3400	2200	2200	3600	3400	2100	3800	2700	11300				
施設	開水路トンネル	開水路	開水路トンネル	圧力管トンネル	開水路トンネル	圧力管トンネル	開水路トンネル	圧力管トンネル	開水路トンネル	圧力管トンネル	開水路トンネル				
水路底高	75	70	70 20	65 20	65 0	55 0	55 -15	50 -15	50 -10	40 -10	35				
流量	最大20m ³ /s										最大15.3m ³ /s				
勾配	平均勾配 約1/1000														
地盤高 (I.P.m)	97	112	83	160	54	93	40	18	24	22	46	30	33	92	57
断面形状	開水路トンネル (揖斐川～長良川) 			圧力管トンネル (揖斐川～長良川) 			圧力管トンネル (長良川～木曽川) 			開水路トンネル (長良川～木曽川) 					

※ この縦断図は概要図であり、今後の検討により変わることがあります。

徳山ダムと導水路



● 木曽川水系連絡導水路の経過

1968(昭43)年 木曽川水系水資源開発基本計画

1973(昭48)年 木曽川水系水資源開発基本計画(全部変更)

1988(昭63)年 長良川河口堰本体工事着工

1989(平元)年 徳山村466世帯移転契約完了

1995(平 7)年 長良川河口運用開始

徳山ダム建設事業審議委員会設置

1997(平 9)年 河川法改正

2000(平12)年 徳山ダム本体着工

2004(平16)年 木曽川水系水資源開発基本計画(変更)

2007(平19)年 8月木曽川水系連絡導水路上流分割案

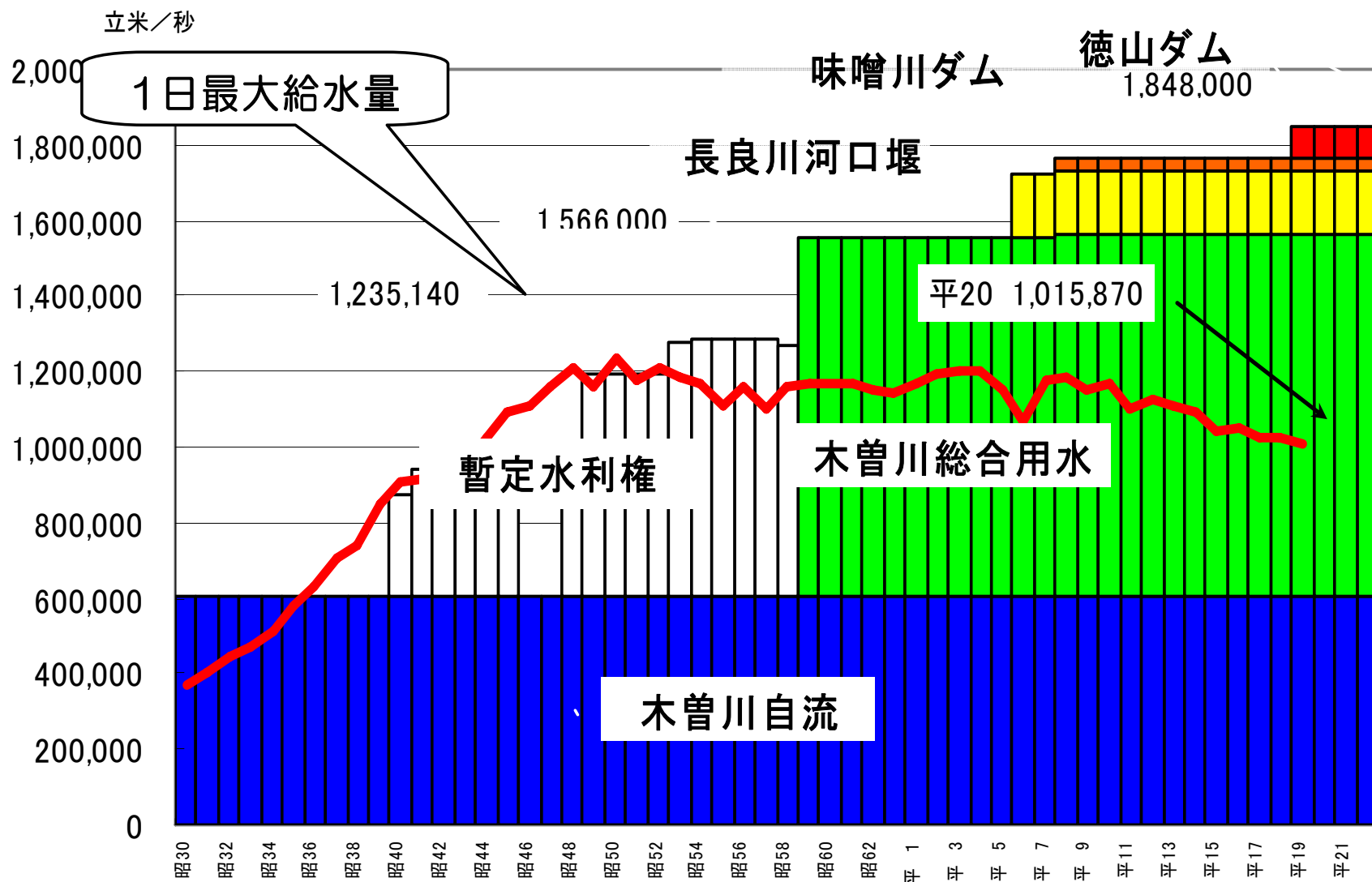
12月 長良川市民学習会発足

2008(平20)年 3月木曽川水系河川整備計画策定

4月徳山ダム運用開始

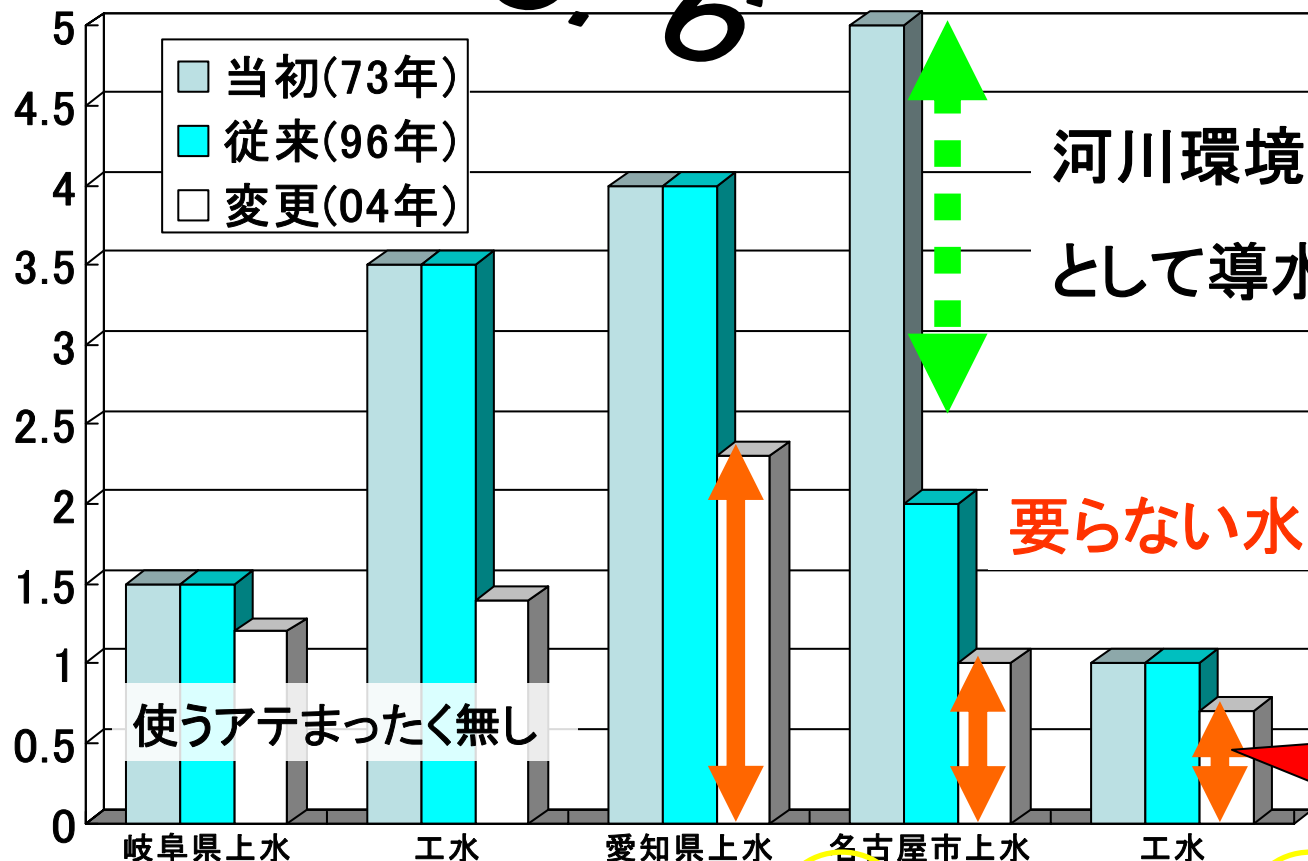
9月 「導水路」事業 水資源機構が事業承継

名古屋市の1日最大給水量と水利権の推移



徳山ダムの水いりません

m3/秒



使うアテまったく無し

岐阜県 5.0 → 2.6

愛知県 4.0 → 2.3

名古屋市 6.0 → 1.7

河川環境改善？

として導水される！

要らない水が導水される！

これを長良川に
常時放流！

利水面、大きな課題

知事、利用者開拓急ぐ意向

徳山ダム

本格運用が近づく。揖斐川町の徳山ダムについて、古田肇知事は22日の記者会見で「治水面では大きな効果が期待できるが、利水面が大きな課題だ」と述べ、市町村と協力しながら、水の利用者の開拓を急ぐ意向を示した。

県は今年度予算で、徳山ダムの事業費償還

金の一部は、2億円を計上しており、今後23年間で59億円という巨額の償還金を分割払いする。償還金は水の利用料を定めて

触れ、「環境への影響を重視しており、国土交通省の導水路影響検討会での議論をもとに、県として環境面で言うべきことを言っ

「利水面が大きな課題」と話す古田知事

定だが、利水の確保は「いきたい」と話した。まったく立っていない。このため、古田知事は「償還は大きな財政負担だ」と話した。

また古田知事は、愛知県や名古屋市の金山ダムの水を利用するのにも必要となる導水路の建設計画についても

徳山ダムは総貯水量6億6000万立方メートルのうち、利水容量が7000万立方メートル。ダムの総事業費約3500億円で、利水事業には約7億円を費やしている。

【稲垣衆史】

【稲垣衆史】

「放流理由の説明を」

徳山ダム 市民団体が要請書
導水路計画

市民団体「『長良川に徳山ダムの水は要らない』市民学習会実行委員会」（粕谷志郎代）
書を、岐阜市忠節町の中部地方整備局木曽川上流河川事務所に提出した。

実行委はこれまで、
岐阜市と県に対して、
把握している情報の開
示などを要請してき
た。実行委メンバーら

山形県長良川に徳
を流さなければなら
ない理由が分る。か
と訴えた。

2時から、岐阜市橋本
町のひろくプラザ
で、導水試験による
環境への影響を検討す

る。有識者らの一環、一般公開は初めてとなる。【鈴木敬之】

岐阜県 工水1.4m³/秒

上水1.2m³/秒

2008年4月23日「每日新聞」

**利水の×ドは
まったく立っていない！**

金の一部は、2億円を計上しており、今後23年間で50億円という巨額の償還金を分割払いする。導水の利用料を定めて償還金を分定だが、利水の償還金もまったく立っていない。このため、古田氏は「償還は大きな財政負担だ」と話した。

また古田知事は、愛知県や名古屋市の山ダムの水を利用するのにも必要となる導水時の建設計画についても

長良川に徳川氏を流さなければならぬ理由が分からない」と訴えた。

古田氏は24日午後2時から、岐阜市橋本町の市庁舎で、導水計画による環境への影響を検討す

る。有識者らの「環境委員会」で公開で行

を重視しており、国交通省の導水路影響研究会での議論をもに、県として環境面を言うべきことを言いたい」と話した。

徳山ダムは総貯水容量6億6000万立方メートルのうち、利水容量が6億6000万立方メートルで、利水事業に7億円を費やしている。

【稲垣衆中

環境改善のため？

川にどれだけの水を流すのか

河川整備基本方針において「主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項」を定める。

$$\text{正常流量} = \text{水利流量} + \text{維持流量}$$

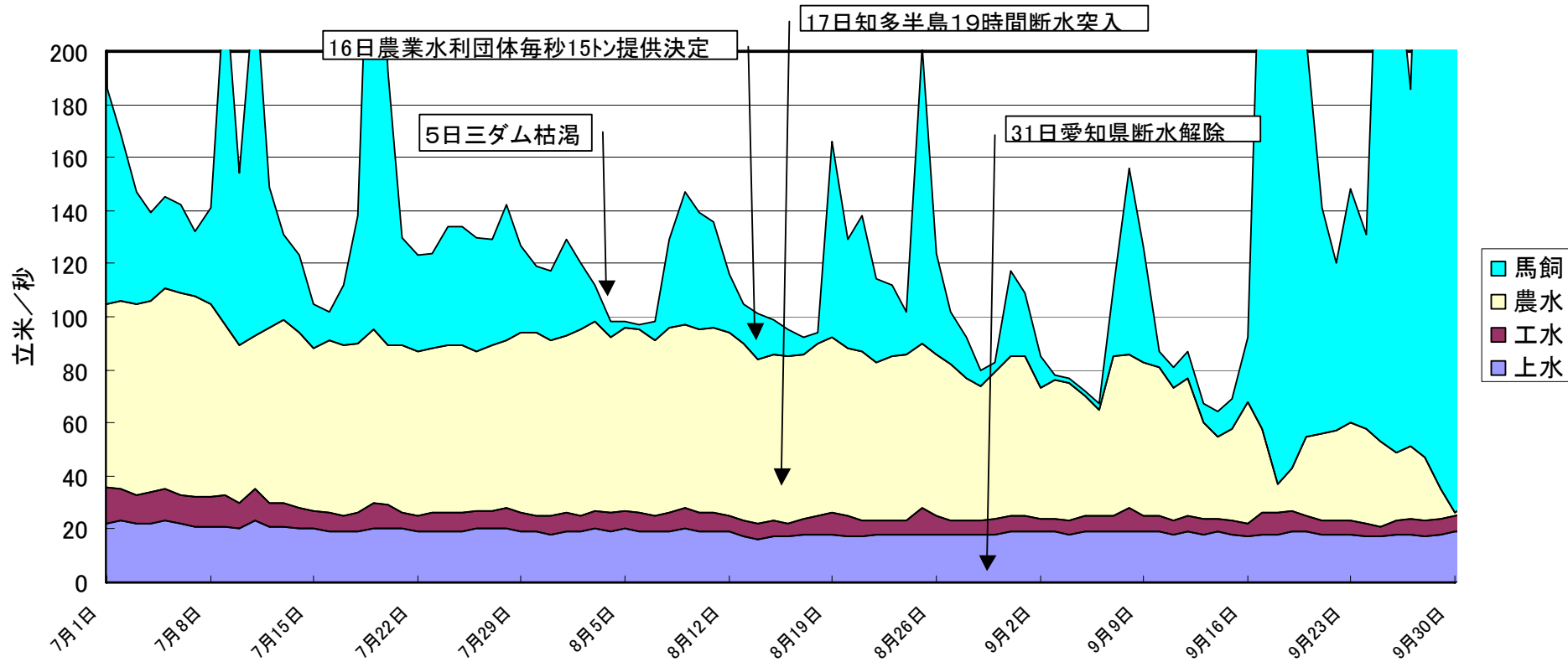
（今回、国が根拠にしたもの）

木曾川 成戸地点 毎秒50m³（ヤマトシジミの生息）

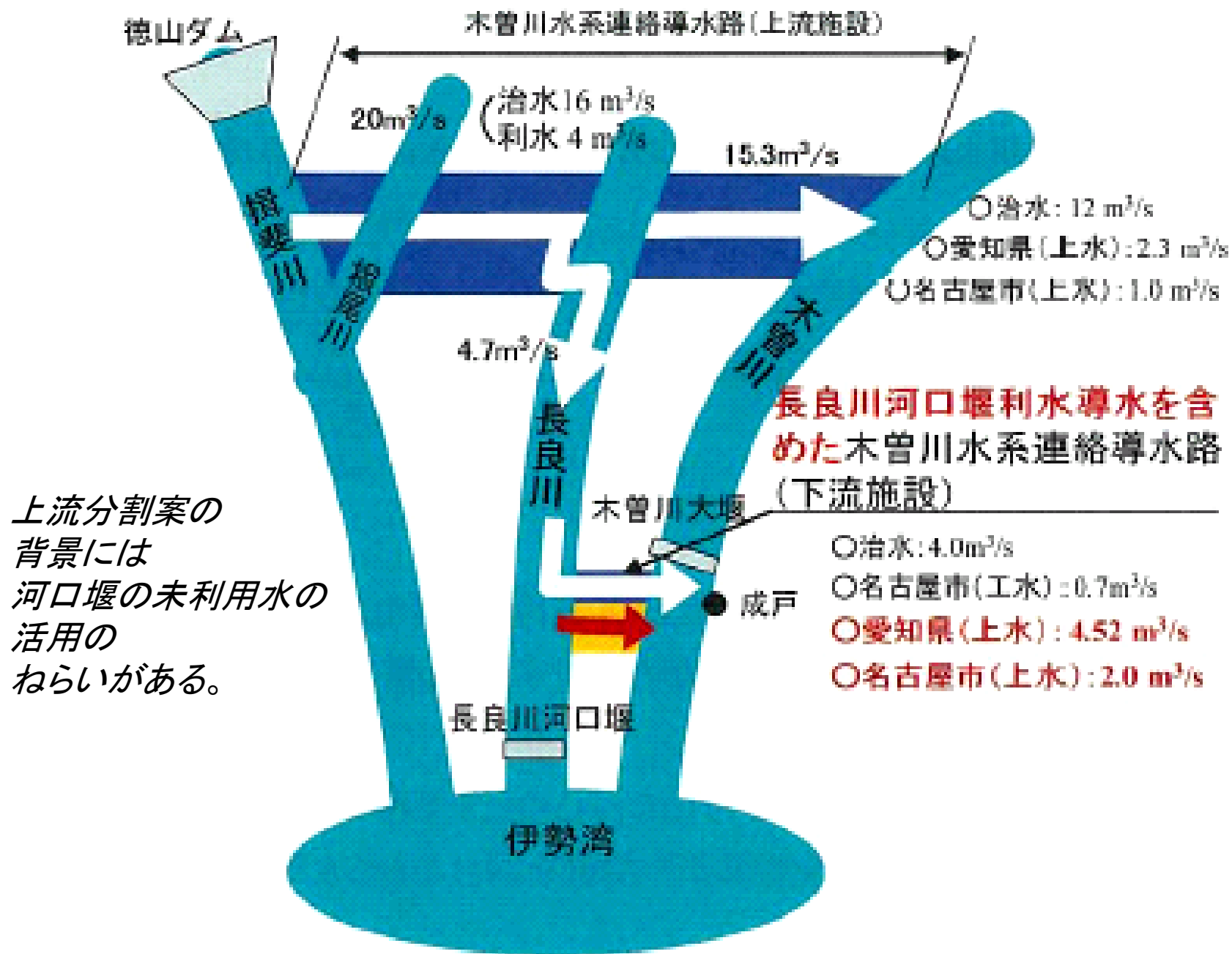
長良川 忠節地点 毎秒26m³（魚類の産卵）

いずれも科学的根拠なし。疑問の声に回答なし。専門家の議論も避ける。

94渇水 利水と馬飼流量



94木曽川渇水はダムの水がカラになっても
農業用水の調整があれば乗り切れることを証明した！



2008. 11 / 28 中日新聞

(第3種郵便物認可)

環境調査 119項目の意見

木曽川水系
導水路事業 県、国などに提出

県は、木曽川水系連
絡導水路事業が環境に
与える影響を調べてい
る国や水資源機構に対
して、その調査方法に
ついて百十九項目にわ
たる意見を提出した。
両者が地元の県に意見
を求めている。

動植物や生態系、水
環境などの各調査に
は、期間や地域の設定
意見」として四十項目
を記載。「長良川の水
根拠を明確にするよう
求めている。

環境への影響の調査が
不十分」「放流する水
の水質や量などがあい
まいで、影響の予測は
難しい。こうした条件
と影響検討は一体なの
で状況に応じて調査方
法などを追加していく
べきだ」などの意見を
盛り込んだ。

(河原広明)

導水路事業は徳山タ
ム(揖斐川町)の水を
下流域で利用するため
全長四十二キロの地下ト
ンネルなどで木曽、長
良両河川に流すが、放
流先の川的环境悪化を
懸念する声もある。
渇水時に放流でアユ
の生息できる環境が増
えるとする国や機構の
主張には、県は具体的
に説明するために必要

岐阜県は、
導水路事業合意の撤回を！

2008. 12 / 12 岐阜新聞

木曽川水系施設
兼用、知事「認めず」
長良川河口堰利水と

木曽川水系連絡導水
路の施設で長良川河口
堰(せき)の水利用を
兼用する計画が検討さ
「将来にわたって県と

して兼用を認めること
はない」と述べ、連絡
導水路と河口堰の利水
導水は別の事業との認
識を強調した。

導水路は揖斐川上流
の徳山ダム(揖斐郡揖
斐川町)の水を木曽川

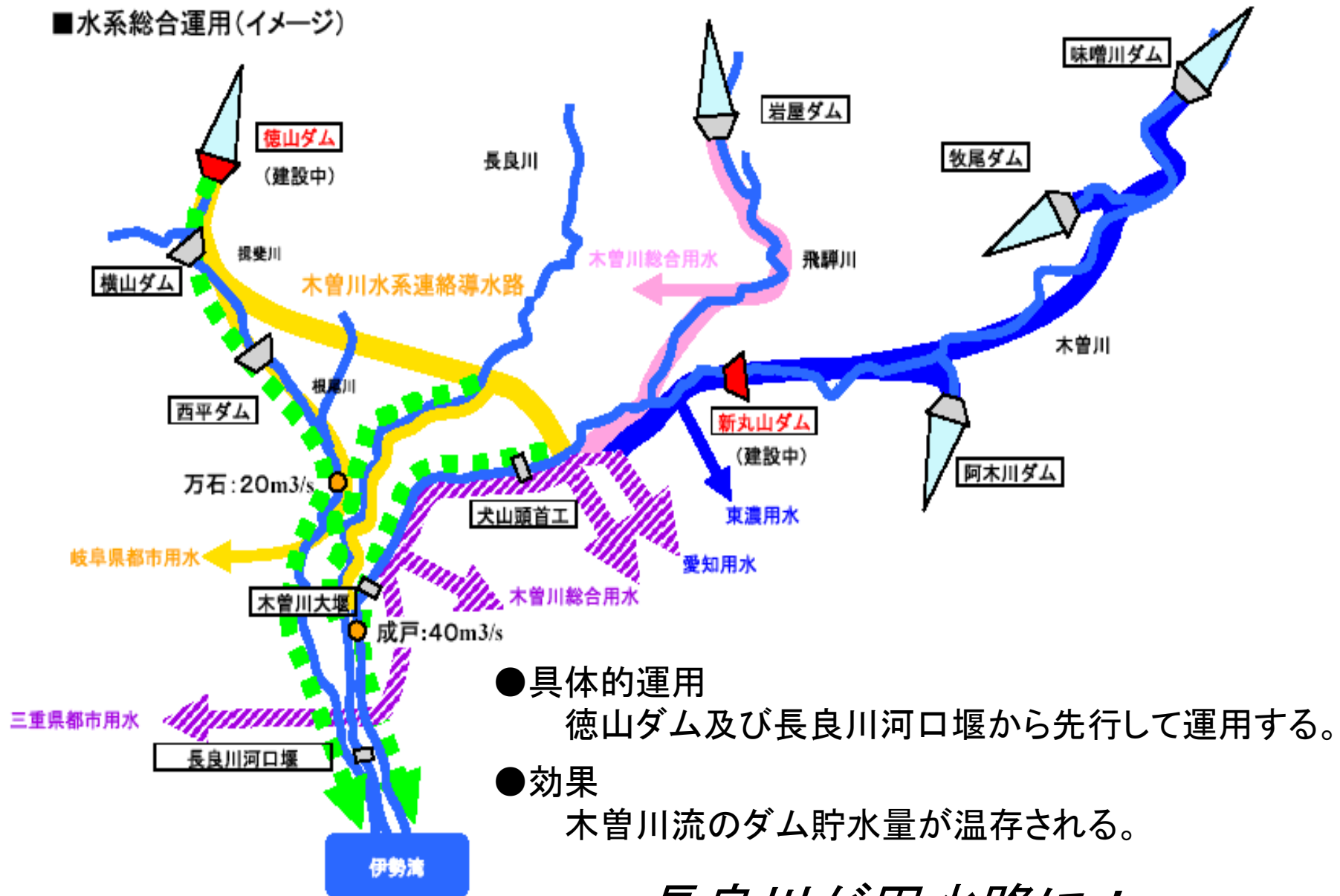
に流す上流施設と、一
部を長良川を経由して
木曽川に流す下流施設
をつくる計画。この下
流施設で河口堰の水を
木曽川に送る兼用案が
検討された。

棚瀬直美県土整備部

長も「兼用案は廃案と
された。連絡導水路は
長良川河口堰の利水導
水とは全く別もの。国
土交通省も同様の見解
だと確認している」と
答弁した。

水系総合運用

■水系総合運用(イメージ)



●具体的運用

徳山ダム及び長良川河口堰から先行して運用する。

●効果

木曽川流のダム貯水量が温存される。

長良川が用水路に！

木曽川水系連絡導水路事業 費用負担割合(案)

元気な愛知?に、重い重い負担が.....

事業名	施設区分	費用	用途別	国	岐阜県	愛知県	三重県	名古屋市
木曽川水系連絡導水路	上流施設	880.0億円	治水	70.0%	30.0%			
					17.0%	75.5%	7.5%	
			利水	402.2億円	29.3億円	130.2億円	12.9億円	
						61.0%		39.0%
	下流施設	10.0億円	治水			186.3億円		119.1億円
			利水	70.0%	30.0%			
					17.0%	75.5%	7.5%	
合計		890.0億円	治水	6.0億円	0.4億円	1.9億円	0.2億円	
			利水					100.0%
								1.5億円
			治水	45.9%	3.3%	14.8%	1.5%	
			利水	408.2億円	29.7億円	132.1億円	13.1億円	
			利水			20.9%		13.6%
						186.3億円		120.6億円

※実際の費用負担額は費用全体に各負担割合を乗じて算出されるため、上表の値と異なる。

※名古屋市工業用水が取水するため、別途設備(4.5億円)がある。

2-1 連絡導水路事業の進め方

環境影響検討の進め方

